



平成会
和田 喜治
議員

成東中学校の廃校問題と少子化対策について

問 市長の進めている構想は、先進県で進めている構想と余りにも違いがあります。市の中心地で、人口密度が一番高い中学校の廃校は一ヶ所もないようです。成東中学校は建て直すという事で進められていましたが、2年前に市長の考えで、二日間の協議で覆されてしまいました。この協議会に成東地区の教育委員が欠員のまま進められたことに、問題はあります。そこで、市長・教育長に、現在でも計画どおり進めていくのか伺います。

答 市長 成東中学校の廃校は、FM(ファシリテイマネジメント)の面から有効活用しているという中で、現行使える校舎を使っているというところから、

問 成東中学校ということになりました。教育長 成東中学校については、今後丁寧なご説明をさせていただきますながら、ご理解を得ていきたいと思っております。

問 小学校13校ある中で、生徒数が一番多いのは、成東小学校の330名です。この先、数年を見据えても、子どもたちの減少はありません。これは、なるとうことでも園の園児数を見てもわかります。そういうことで、平成26年から平成29年までの出生数、成東地区の場合は、廃校問題に関係しますので、5地区の出生数も併せて伺います。

答 市民部長 平成26年度は270人、27年度

は299人、28年度は236人、29年度は9月末現在で101人となっております。成東地域の5小学校区のゼロ歳の新生児数は、平成29年5月

1日現在で、成東小学校区49人、大富小学校区9人、南郷小学校区27人、緑海小学校区14人、鳴浜小学校区11人、全部で110人です。

築山問題について

問 今、計画されている築山計画は、津波が発

生したときに避難するため

の盛り土をした施設で、高さ10m、敷地面積は約1万㎡の予定で、予算は2億8千万円だそうです。市長は津波の心配はないからと、成東中学校の生徒を現在進めている築山から、2km先にある成東東中学校に、成東・大富地区の子供たちをかわせようとしています。私がいくら意見を言っても、行政、

成東・大富地域の方々の反応が鈍く、このままでは、その方向に進んでしまいます。津波対策をしている中で、成東中学校の廃校。何かおかしくありませんか。市長はこの築山計画については一旦中止ということでしたが、何故今回の計画になったのか伺います。

答 市長 復興予算がいただけるということ、今回、築山も計画にのせることにしました。

市役所近辺の道路問題について

問 山武地区から、成東の国道126号線につ

ながる道路のごとですが、突き当たりはすぎのや本陣です。12年前はすぎのや本陣の土地は空き地でした。現在市役所前を通ってさむ医療センターに通じる道

路は、途中まで完成しておりましたので、126号線を通すつもりで、抜き差しを真つ直ぐに抜けるものと思っていました。しかし、その空き地に食堂を建てたことは、旧成東町の行政機関の怠慢さにあります。優秀な首長が、気がつかなかった

ので、仕方がなかったようです。何か問題があつて出来なかつたのか伺います。

答 都市建設部長 その当時は、国道交差点から、市役所前の市道までの区間には、道路整備計画がなかったことが、二つの要因として挙げられます。

成東駅、駅裏開発について

問 前回、副市長から、事業採算が見込まれないということ、具体化してこなかったという答弁

でした。私の聞いてるところでは、大きく土地を所有している方は、3名だと伺っています。そして、土地の所有者がわからないところもあるようですが、そのところはどうか伺います。また、全体土地所有者は何名ですか。

答 都市整備課長 今年度、以前計画のあった、約16haについて、地権者を確認したところ、個人所有で30名、法人所有で5社となっております。1ha以上の所有者は、法人、個人合わせて2件となっております。

問 難しい、難しいということ、手が付

けられないかもしれませんが、やる気がなければ、何事も前には進みません。この手をつければいけない場所に、道路1本通すことで、難しい問題の解決につながります。そこから、成東中学校、さむ医療センター建設につながっていきます。そこで、何のしがらみのない都市整備課長の意見を伺います。

答 都市整備課長 駅北側については、計画的に開発と整備を一体的なものとして考えていく必要があります。道路だけを整備することで、どのようなことが考えられるかを含めて、検討しなければならぬと考えています。



成東304号線工事(平成29年12月25日撮影)